

(様式第4号)

上田市上下水道審議会 会議概要

1 審議会名	令和元年度(第6期)第7回上田市上下水道審議会
2 日時	令和元年11月8日 午後2時から午後4時まで
3 会場	真田地域自治センター 3階 講堂
4 出席者	大口委員、掛川委員、梶村委員、甲田(京)委員、甲田(忠)委員、 小林(勉)委員、小林(裕)委員、高寺委員、高橋委員、田中委員、西澤委員、 根橋委員、布施委員、堀内委員、本間委員、松本委員、山寺委員、山本委員
5 市側出席者	柏木上下水道局長、城下経営管理課長、山口サービス課長、 小井土上水道課長、藤極下水道課長、越浄水管理センター所長、 芳池丸子・武石上下水道課長 (以下経営管理課)黒岩課長補佐兼経理担当係長、真壁課長補佐兼経理担当係長、 青井庶務係長、庶務係清水
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和元年11月11日

協 議 事 項 等

1 開会

2 会長あいさつ

- ・ 過日の台風19号は、上田市にも大きな被害をもたらした。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

3 議事

(1) 審議委員からの意見・質問に対する回答について

○事務局より資料1に基づき審議委員からの意見・質問に対し回答

- ・ 委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 小諸の水道事業について、第三セクターの「株式会社水みらい小諸」は三分の一が市職員ということだが全体で何人になるのか。

(事務局) 全体で社員は22名、このうち小諸市派遣職員が7名、水ingAMが4名、第一環境が5名、その他独自採用5名、検針員1名という構成で始まったと聞いている。

(2) 台風19号の被害状況について

○事務局より資料2に基づき説明

- ・ 委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) ①被害額と合計額、復旧見込みについて一覧表にしていきたい。

②上田地域塩尻地区の上田終末処理場は被害がなかったのか。

(事務局) ①被害額、進捗状況、復旧見込みについて資料を作成し配布する。

②上田終末処理場については停電等もなく、被害はなかった。

(3) 平成30年度決算の概要について

○事務局より資料3、4に基づき説明

- ・ 委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 上下水道事業合算した表はないのか。

(事務局) それぞれ別会計になっているため、合算したものはない。

(委員) 上下水道局としての企業規模というものはどこにも出てこないのか。

(事務局) それぞれ別会計になっているため、支出の規模でいうとそれぞれの事業会計の収益的収入及び支出の支出と資本的収入及び支出の支出の部分全てを足し上げたものが3会計合計の規模という事になる。

(委員) 一般会計からの繰入金総額いくらかも含めて3会計の合計を、参考資料としていただきたい。

(事務局) 次回の審議会でも3会計合計したものを配布する。

#### (4) 上田市上下水道事業経営戦略の見直し(案)について

○事務局より事前に送付した冊子に基づき説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) ①40年を見込んであるとあるが、何故40年なのか。(見直し(案)冊子16ページ)

②今回の計画は料金を上げないという前提での計画ということだが、先般の台風19号による管、設備等の被害の復旧に対しては国から予算がくると思われるが、そういったものに絡めて耐震構造等設備(管路等)を新しくしていったらどうか。その点についてこの計画には盛り込まれていないと思われるが今後検討に含めていただきたい。

(事務局) ①昨年度に策定した上水道ビジョンの中でも今後40年の長期を見据えてというフレーズがあり、ひとつの目安となっている。40年という事には正直意味はないが、今回長期の整備計画は80年の整備計画でアセットマネジメントを作り、年間約15億円の投資が必要となる。何故80年かという管路の更新時期が80年経てば今現存する管路が一新するところを一つの基準として80年ということでの長期整備計画を立てた。しかし、80年後の人口予測も難しい中で、40年という人口予測を一つの目安としてどのように料金収入等が変化するかということを立てている。そういった意味合いで40年としている。

②今回の災害を受けて復旧をしていく中で、耐震施設にしていったらどうかということだが、局としても今後更新していくもの、災害を受けて復旧更新していくものも基本的に耐震構造を前提としている。災害を受けなくても今更新している管路については全て耐震管を適用している。

したがって、更新は、今後将来を見据えて大きな地震が起きても強い施設、強靱化ということが謳われているので全て耐震化の構造で更新している。

(委員) 管路の耐用年数は80年という事なのか。

(事務局) 管路の法定耐用年数は40年と決められているが、今設定されている管路は非常に強靱化がされ耐震性が高いという事で上田市独自で80年という基準を設けている。これはあくまで上田市独自の基準ということになるが、上田市が勝手に決めたものではなく、全国的に他の都市が耐用年数をそれぞれ決めている。80年としている都市が多いため上田市も80年を一つの目安とし、今入れている管は80年後に更新するという基準をもとに今後の更新事業を進めていく。

#### 4 その他

・全体を通しての委員からの意見・質問なし

(事務局) 次回審議会の開催日程等を説明

#### 5 閉会

以上